

第6回会津若松市総合計画審議会（第1部会）の主な意見

部 会：第1部会 まちづくり②

日 時：平成28年6月1日（水） 10:00-12:00

場 所：ホテルニューパレス

出席者数：審議会委員 8名、オブザーバー 1名

| No. | 項目 | 委員からの主な意見 |
|-----|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 「政策分野24 公園・緑地」の施策本文 | 目指す姿に「適正に管理」とあるが、公園や緑地の新たな整備は行わないということか。 まちなかの公園は足りないと感じており、また、市民アンケートにおいても同様の意見が出ていると認識している。新たな整備という視点が必要ではないか。 着眼点の3つ目、施策1も同様である。 |
| 2 | 「政策分野24 公園・緑地」の施策本文 | 「長寿命化」という言葉について、物であれば「耐用年数」が一般的。具体的にはどのような取組を指すのか、イメージがわかりにくい。 |
| 3 | 「政策分野24 公園・緑地」の施策本文 | 周辺部の住民にとっては農村公園等が交流の場となるだけでなく、災害時の避難場所にもなり重要。また、新興住宅地の公園も必要。総合計画なので、公園の整備については記述すべきでは。 |
| 4 | 「政策分野24 公園・緑地」の施策本文 | 日々利用する緑地は広くなくてよい。新たに作るより、既存の物を住民・地域の方と一緒に活かしていく方がよい。 |
| 5 | 「政策分野24 公園・緑地」の施策本文 | 「整備」とすると新たに作ることになってしまう。足りないのは緑化の取組であり、そのためには町内会の力が必要ではないか。新興住宅地の緑地をどう魅力的にしていくかが課題ではないか。 協働の視点に関する言葉が寂しいか。 |
| 6 | 「政策分野24 公園・緑地」の施策本文 | 公園全体の施策であるならば、着眼点の1点目、「まちなか」という表現は見直しが必要ではないか。どうしても中心市街地をイメージしてしまう。 |
| 7 | 「政策分野28 雪対策」の施策本文 | 除雪機械の確保だけでなく、オペレーターの確保も重要。どう取組んで行くのが課題。 |
| 8 | 「政策分野28 雪対策」の施策本文 | 目指す姿、「事業者、市民との協働」はメッセージとしてよい。 具体的に何をしたらよいのかがわかるよう取組を記載してもよいのではないか。 |
| 9 | 「政策分野28 雪対策」の施策本文 | 一人暮らしの高齢者や障がい者への対応は行っているのか。 |

| No. | 項目 | 委員からの主な意見 |
|-----|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10 | 「政策分野28 雪対策」の施策本文 | 昭和50年代には、雪が降ると、〇日は××地区と決めて、子どもたちも一緒に地域住民による除雪・排雪を行っていた。雪国の取組として現代だからこそ必要ではないか。行政任せではなく、自分たちでやろうという姿勢が重要である。 |
| 11 | 「政策分野28 雪対策」の施策本文 | 親雪・利雪の取組について、絵ろうそく祭りやスノーバトルのようなイベントを市全体に広げていけるとよい。 |
| 12 | 「政策分野29 都市づくり」の施策本文 | 「コンパクトなまち」という表現。中心市街地に集約するということではなく、市民が近場で事足りるまちにする、という意図であることが誤解なく伝わるようにすべき。 |
| 13 | 「政策分野29 都市づくり」の施策本文 | 「都市計画マスタープラン」の期間は。 |
| 14 | 「政策分野29 都市づくり」の施策本文 | ユニバーサルデザインの考え方が大切。最近では理解する人が増えてきている。そうした考え方が普及すれば多くの方が暮らしやすいまちになるだろう。 |
| 15 | 「政策分野30 道路橋梁」の施策本文 | 着眼点や施策にあるように、目指す姿に「安全」の文言は必要ではないか。 |
| 16 | 「政策分野30 道路橋梁」の施策本文 | 長寿命化、維持管理とあるが掛け替えなど改修は必要。そうした文言を入れることはできるか。 |
| 17 | 「政策分野30 道路橋梁」の施策本文 | 大がかりな道路整備には必要なものもあるが、すべての道路を広くする必要はない。人口減少等も踏まえ、新たに道を作る、というような計画は見直してもよいのではないか。それも含めて、施策の方向性は誤っていないと考える。 |
| 18 | 「政策分野33 上下水道」の施策本文 | 着眼点の4点目、微妙な表現であるが、工事のスピードはゆっくりでよいし、下水道と浄化槽ともに整備するとしており、下水一本化でない点も評価できる。 |
| 19 | 「政策分野33 上下水道」の施策本文 | 下水道の普及について、つないでいない人のことをどう表現するべきか。 |
| 20 | 「政策分野34 住宅・住環境」の施策本文 | 公営住宅の空き部屋の数は。 |

| No. | 項目 | 委員からの主な意見 |
|-----|----------------------|------------------------------------------------------|
| 21 | 「政策分野34 住宅・住環境」の施策本文 | 空き家発生の未然防止の取組のイメージは。 |
| 22 | 「政策分野34 住宅・住環境」の施策本文 | 家探しをしていた経験から、不動産として出ている空き家は少ないが、実際に住んでみると空き家を多く見かける。 |
| 23 | 「政策分野34 住宅・住環境」の施策本文 | 市場の問題もあるが、持ち主が放置していることも問題である。 |

| No. | 項目 | 委員からの主な意見 |
|-----|----------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 24 | 「政策分野34 住宅・住環境」の施策本文 | 今後、施設に入居する高齢者が出てきて、空き家が増えていく。事前相談できる窓口があると良い。リバースモーゲージのような制度があると良い。 |
| 25 | 「政策分野34 住宅・住環境」の施策本文 | 家を建てたらずっと住む、という日本人特有の考え方、習慣も変えていかなければいけない。 |
| 26 | 「政策分野35 景観」の施策本文 | 自然、歴史、市街地の3つの景観があるが、自然景観は取組が見えづらい。田圃のあぜ道等も景観のひとつ。力を入れて取り組んでほしい。 |
| 27 | 「政策分野35 景観」の施策本文 | 自然景観については、景観審議会指定等行っている。ほぼ頭打ちになってきているので、今後は維持管理にも目を向けるべき。 |